

|          |  |
|----------|--|
| 氏名       | 横山 奈緒枝   |
| 学位       | 博士   |
| 専門分野の名称  | 文化科学   |
| 学位授与番号   | 博甲第3688号   |
| 学位授与の日付  | 平成20年3月25日   |
| 学位授与の要件  | 文化科学研究科人間社会文化学専攻<br>(学位規則第4条第1項該当)                   |
| 学位論文題目   | 高齢者福祉の場におけるソーシャルワーカーの対人援助技術<br>—関わり調整モデルの視点から—       |
| 学位論文審査委員 | 主査・教授 小林 孝行      教授 知野 哲朗<br>教授 田中 共子      准教授 藤井 和佐 |

### 学位論文内容の要旨

本研究は、多様なソーシャルワーカーの業務の中でも、高齢者に対する対人援助に焦点を当て、ソーシャルスキルの分析という方法を用いて、対人援助技術の抽出と明確化を通して、ソーシャルワーカーの専門的技術の検討を行ったものである。

本論文は序章、第1章、第2章、第3章、第4章、第5章、終章という7章構成となっている。

序章「研究課題と目的」では、高齢化の進展など社会状況が変化する中で、それに対応する社会福祉などの社会制度も急激に変化している。そのなかで、社会福祉領域におけるソーシャルワーカーの役割がいっそう重要となっているにもかかわらず、それが依然として曖昧なままとなっているという、現状と問題点をふまえ、その上で、研究目的をソーシャルワーカーの対人援助に関する専門技術の探求という課題として設定し、本研究の現代的意義を明らかにしている。

第1章「研究視座と分析枠組」では、ソーシャルワーカーの対人援助技術や、関わりとコミュニケーションに関する先行研究を整理検討し、分析枠組としてソーシャルスキルの概念を適用するための方法的検討を行った。

第2章、第3章、第4章では、ソーシャルワーカー、社会福祉を専攻する学生、地域における介護などの活動の担い手などに対してそれぞれインタビュー調査を実施して、ソーシャルスキルの分析という方法を用いて、スキルのカテゴリー化をおこない、それにもとづいて分析と三者の比較検討している。

第2章では、ソーシャルワーカーを対象としてインタビュー調査を実施し、繊細にわたる観察と発動やかかわりを創出する柔軟な動き、時間の活用と調整などに関わるソーシャルスキルを見出し、生活の空間と時間という総合的な調整を見出し、「関わりと調整モデル」として図式化した。

第3章では、「バイスティックの原則」を検討しながら、学生を対象としたインタビュー調査から、同様の手法を用いて、ソーシャルスキルを析出し、第2章で析出されたソーシャルスキルと対比して検討した。

第4章では、ソーシャルワーカー以外の介護や地域活動の担い手を対象としたインタビュー調査を行い、同様の手法を用いてソーシャルスキルを析出し、第2章で析出されたソーシャルスキルと対比して検討した。

第5章「調査結果に見るソーシャルワーカーのスキル」では、2, 3, 4章で検討したものを総合し、10項目のソーシャルスキルをソーシャルワーカーに特徴的なものとして提起した。

第6章「高齢者福祉における専門技術の向上をめざして」では、本研究で取り上げることができなかった検討として、ソーシャルワーカーの対人援助以外の専門性を挙げ、今後の課題とするとともに、特に第2章との関連ではソーシャルワーカーの養成課題について、ソーシャルスキルの活用方法についても展望した。

### 学位論文審査結果の要旨

本論文の学位審査会は、4名の学内審査委員の出席のもとで、2007年2月12日10時から、文学部会議室で開催された。

現代日本社会は高齢化の進展にともない、制度改革が行われる中で、福祉、介護、医療など様々な領域の活動が複合し、もともと多面的なソーシャルワーカーの業務の確立と、それを前提とした他の領域との調整が求められている。本論文は、ソーシャルワーカーの役割の中でも、特に重要な部分である対人援助活動に焦点を当てて、ソーシャルスキルの分析という方法を用いて、それを明確にする試みを行っている。

本論文の特徴は、ソーシャルワーカーの技術を明らかにするために、ソーシャルスキルの枠組を用いたことと、社会福祉士養成過程の学生、高齢者に関わる地域活動の担い手に対して同様の調査を行って、ソーシャルワーカーとの比較検討を行っていることである。

ソーシャルスキルの分析という方法を用いることは、これまでソーシャルワーカーの技術の検討では初めての試みであり、その特徴は、個別的なソーシャルワーカーの技術がカテゴリー化され、明示化されるという点であり、またソーシャルスキル・トレーニングなどを通して、それはソーシャルワーカーの教育、養成プログラムにも活用されるものと考えられる。

また、社会福祉士養成課程の学生、高齢者に関わる地域活動の担い手に対する調査を行い、ソーシャルワーカーと比較対象をしている。福祉の専門的知識と対人援助経験を併せもつソーシャルワーカーに対して、いくらかの福祉の専門的知識はもつが対人援助経験をほとんど持たない学生、福祉の専門的知識はほとんど持たないが、日常的な対人援助の経験を持つ地域活動の担い手という三つの集団のソーシャルスキルを比較検討して、ソーシャルワーカーの専門的な技術を明らかにしている。それはソーシャルワーカーの技術を明確化するための試みとしては興味深いものである。

そして、ソーシャルワーカーに特徴的な技術を「長期間を見込んだスキル」、「情報把握・情報活用スキル」、「家族・地域調整スキル」、「手段的スキル」、「確認・修正スキル」、「聞き取りのスキル」、「非言語スキル」、「傾聴と距離をおくスキル」、「調整と活用のスキル」、「認知・解

積スキル」という10のスキルを提起している。

本論文に対しての問題点として、いくつかの点が指摘された。一、ソーシャルワーカーの対人援助の対象者である高齢者側に対する調査が実施されていない。二、これらのソーシャルスキル研究から社会福祉士の養成プログラムを策定するには尚いくつかの課題がある。三、ソーシャルスキルに関する論考にやや厳格さを欠く部分が見られる。四、文章表現にいくつかの不備が見られる。などである。このうち、一、二に関しては今後の研究課題とみなされるものといえる。

以上のような審査の結果、審査委員会では本論文を全員一致で、本論文を学位論文に相応しいものであると認定した。